

令和 4 年 5 月 18 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13979

研究課題名（和文）学校参加の条件となる保護者意識の形成過程に関する研究

研究課題名（英文）Study on the Process of Forming Parents' Attitudes as a Condition of School Participation

研究代表者

大日方 真史（OBINATA, Masafumi）

三重大学・教育学部・准教授

研究者番号：00712613

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、保護者の私的関心の排他性を問題と捉えて学校教育の公共性の成立可能性を探ってきた研究代表者のこれまでの研究を発展させるものである。研究代表者は、これまで、特に、保護者の意識において子どもたちに向けられる「共通関心」が形成される可能性に着目して研究を重ねてきた。本研究は、それらを展開して、いくつかの点から保護者の学校参加の条件を明らかにした。すなわち、わが子の特性に困難を抱える保護者において子どもたちに向けられる「共通関心」が形成される条件、保護者間において公的な性質をもつネットワークが形成される可能性、保護者における「共通関心」の形成を促す学級通信の記述の特質、である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校教育における多様な保護者の参加に向けた条件が保護者の意識の変容過程に即して明らかになり、学校参加論をはじめとする教育学研究に対して、今日の教育の私事化状況における公教育の意義を再検討する議論の展開に寄与するという学術的意義がある。また、保護者や教師に対して保護者の学校参加の今日的な可能性と課題を示す研究成果でもあり、各種の機会に保護者や教師に対して助言等を行うとともに、教育雑誌にも成果を公表し広くアプローチできるようにした。

研究成果の概要（英文）：This study further develops the previous studies conducted by the principal investigator, who has explored the possibility of pursuing the publicness of school education by regarding the exclusivity of parents' private interests as a problem. In particular, the principal investigator has been conducting studies on the possibility of forming "common interests" toward children in parents' attitudes. This study further develops these studies and clarifies the conditions for parents' participation in school regarding several aspects. They are the conditions under which "common interests" are formed among parents who experience difficulty regarding the characteristics of their children, the possibility of forming a "public" network among parents, and the description of classroom newsletters that promote the formation of "common interests" among parents.

研究分野：教育学

キーワード：保護者参加 学校参加 保護者間関係 保護者間ネットワーク 共通関心 私的関心 学級通信

## 1. 研究開始当初の背景

教育の私事化状況にあって、保護者の私的関心の排他性の問題は、保護者参加を構想する学校参加論における不可避の論点となっている。研究代表者は、この問題に対して、本研究開始までに既に、保護者の意識は可変的であり、教室の子どもたちに向けて「共通関心」が保護者において形成されうることやその形成の条件に着目した研究を重ねてきていた。すなわち、教師の発行する学級通信や教室参観を通じて保護者に対して「教室の事実」が示され、それが保護者に受容されることによって、保護者において「共通関心」が形成されうることや、保護者の私的関心に対する教師の応答を経て「共通関心」形成へと至ること、保護者の学校関与にとつての「共通関心」の意義、持続性や機能といった形成後の「共通関心」の特質などを明らかにしてきている。こうした研究成果からは、保護者の私的関心を固定的に捉えることには必然性がなく、保護者における「共通関心」を形成する条件を整えることにより、保護者参加における前述の問題を克服する方が見えてくる。

ただし、実際のアプローチに際しては、保護者間における階層や社会関係資本など社会的背景の差異によって保護者の学校関与に質的な差が生じるという問題(城内君枝・藤田武志「階層と社会関係資本が保護者の学校参加に及ぼす影響」『学校教育研究』第26号、2011年、など)への視点が不可欠である。

## 2. 研究の目的

学校関与に困難を抱えやすい保護者への視点を組み込むことにより、上記の研究代表者の研究成果を発展させ、多様な保護者における学校参加の可能性を明らかにすることが研究の目的である。

## 3. 研究の方法

### (1)インタビュー調査

「共通関心」形成の経過や条件を探るために保護者対象のインタビュー調査を実施した。

また、保護者間においてネットワークが自発的に形成される事例を取り上げ、当該事例に関わる保護者を対象にしたインタビュー調査を実施した。

### (2)テキストの分析

すでに当該学級通信を読んできた保護者において「共通関心」の形成が確認されている学級通信を対象に、そのテキストを量的にも質的にも分析し、保護者に対して「共通関心」の形成を促す記述の特質を探った。

## 4. 研究成果

以下の諸成果が得られ、いずれも論文で公表し、保護者の学校参加の条件に関する研究を展開させた。

### (1)困難な状況に置かれた保護者における「共通関心」形成

わが子の特性に困難を抱える保護者は、わが子以外の子どもたちとわが子とを優劣の視点から比較することにより、「共通関心」の形成がなされ難いと推測される。あるいは、そうした保護者に「共通関心」が形成されることがあった場合、その「共通関心」には、わが子に向けられる私的関心との間で独自の連関をなす可能性もある。そのような想定のもと実施したインタビュー調査の結果を分析し、そうした保護者にあっても「共通関心」の形成がなされうること、その形成の条件が学校や教室の状況、担任教師と保護者との関係や、教師の働きかけといった点にあることが明らかになった。

より具体的には、「共通関心」形成の条件とは、教室が多様な子どもたちが関わりあう受容的な場であり、その教室にわが子が確かに位置づいているということが、教室の参観や学級通信を読むことによって保護者に認識されることや、当該保護者と教師の間で保護者の抱えるわが子に関する悩みや困難をめぐってコミュニケーションが成り立ち、それにより保護者の私的関心への応答が可能となること、などである。

加えて、そうした保護者において「共通関心」が形成されてくる経験が、私的関心の質的な変容を伴う可能性も明らかになった。より具体的には、他の子どもたちの姿が、その子どもたちの「ありのまま」の表現が掲載された学級通信を通じて伝わり、「共通関心」が形成される過程において、わが子の存在や表現に改めて価値を見出し、わが子に対してより受容的になるという変容が確認された。「共通関心」の形成過程が私的関心の変容を主導するという事実が確認されたのである。

### (2)保護者間のネットワーク形成における私的な悩みと公的な性質

保護者の有する社会関係資本(社会的なネットワーク)が当の保護者の学校関与に影響を及ぼすことや、保護者を対象にして社会的なネットワークの形成を促す・保障する方策を探るとい

課題を示す先行研究をふまえ、保護者間のネットワークの意義と課題を明らかにした。保護者間のネットワークに着目したのは、それが、子育てと教育の当事者同士として、それ以外とは異なる特殊な関係であり、かつ、ネットワークを構成する主体全員にとって社会的なネットワークの肯定的な影響を期待しうるはずだからである。保護者対象のインタビュー調査を実施し、保護者間においてネットワークが自発的に形成される事例を対象に、当該活動がいかなる過程をたどり、その過程において当の主体においていかなる意識が保持・形成されてきたのかを明らかにした。

また、近年、保護者間においてソーシャルネットワーキングサービス等を通じて関係・ネットワークが形成されてきているという事実、その関係が私的な性質を有するがゆえ、排他的あるいは抑圧的になる懸念があるという点もふまえ、当該事例において「だれでもきていい」場の追求がなされていたことに着目して、ネットワーク形成において公的な性質を追求することの意義と課題を明らかにした。

明らかになったのは、第1に、それぞれの保護者の有する困難や悩みの意義である。それらがネットワークに対するニーズにつながり、そのニーズの所在がネットワーク形成過程において保護者間で互いに確認しあわれていた。

第2に、公的な性質の追求が関係・ネットワーク形成過程に寄与するという意義である。公的な性質をもつネットワークを生み出そうとする活動自体のなかに、それを通じて保護者たちが語り合う関係が生まれる契機・可能性が認められた。

第3に、保護者が自発的にネットワークを形成しようとする活動に学校がいかに関与するかという課題である。公的な性質を保持するためには、学校が主体となって直接に保護者間の関係づくりに取り組むのではなくとも、保護者のニーズに応じた学校の関与が検討されることの必要性が見出された。

第4に、担い手の負担への対応という課題である。保護者間に私的な関係を形成・維持するのは別種の、公的な性質をもつネットワークゆえの負担が担い手の保護者にはあり、その緩和策を検討することが、広く、継続的にネットワークを展開させるうえでの課題となることが確認された。

### (3)保護者における「共通関心」形成を促す学級通信の記述

教師の記述し発行する学級通信のいかなる記述内容にいかにか子どもが登場するか、記述にいかなる特徴があるかを探り、読者としての保護者における「共通関心」の形成を促す学級通信の可能性を明らかにした。

明らかになったことは、第1に、「満遍なく多様な」子どもたちが学級通信に登場しているという認識が保護者に形成される条件となる記述の特徴である。この特徴は、「満遍なく多様な子どもたちが登場すると保護者に感じられること」が保護者における「共通関心」形成の条件の一つであると明らかにしていた研究代表者による先行研究をふまえて追求されたものである。追求の結果、子どもたちの登場の絶対数が多いことで「満遍なく」、複数の掲載内容ごとに登場する子どもに一定の散らばりがあることで「多様な」、登場する内容が極端には散らばらないことで「満遍なく多様な」子どもの登場という認識が保護者において形成される可能性があることが確認された。

第2に、対象とした学級通信に見られた記述形式の特徴が保護者における「共通関心」形成に寄与する可能性である。すなわち、「引用内登場」、「全体への拡張/全体との連関」、「評価者の複数化」と研究代表者が概念化した諸特徴である。

「引用内登場」とは、学級通信において教師に引用された子どもなどの言葉のうちで、その言葉を発するのは別の子どもが登場することである。「引用内登場」の記述は、互いに受容し合っている子ども間の関係を形式としても内容としても示しているといえるものであり、保護者に対して、関わり合う子どもたちに対する「共通関心」の形成を促しうる特徴であることを明らかにした。

「全体への拡張/全体との連関」とは、特定の子どもが固有名とともに学級通信に登場する際に、その登場とあわせて、「みんな」などと学級全体に言及して拡張したり、名の挙がった子どもと全体との連関を示したりすることである。保護者に対して「共通関心」の形成を促すには、各号において多様な子どもたちが登場することに加え、名前の挙がる子どもがほかの子どもたちと乖離しているという印象を読み手に与えないような試みが必要であり、そのために「全体への拡張/全体との連関」を特徴とする記述に意味があることを明らかにした。

「評価者の複数化」は、特定の子どもに対して、あるいは学級や学年の全体に対して、担任以外の教師や参観した他校の教師、保護者といった人々の発した、子どもを肯定的に評価する言葉を紹介する記述に見られるものである。このような記述によって、担任が評価者の立場を独占せず、「評価者の複数化」がなされているといえる。これにより、保護者に対して、担任教師の主観にのみ頼った教室・学級の出来事を受容ではなく、他の大人の目から見ても肯定的に評価される出来事が確かに生じているという認識を保障することで、「共通関心」の形成に寄与しうるということを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大日方真史	4. 巻 73
2. 論文標題 保護者の意識変容の条件となる学級通信 - 「共通関心」形成は教師のいかなる記述によって促されるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 229-237
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大日方真史	4. 巻 910
2. 論文標題 なぜ今「私事の組織化」論か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 52-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大日方真史	4. 巻 71
2. 論文標題 保護者間関係形成の今日的な意義と課題 自発的ネットワーク形成事例の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 283-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大日方真史	4. 巻 70
2. 論文標題 困難な状況におかれた保護者の学校関与と意識変容 わが子の「特性」に困難を抱える母親へのインタビュー調査をもとに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 275-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大日方真史	4. 巻 879
2. 論文標題 評価のまなざしから共感のまなざしへ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 神代健彦・杉浦由香里・大日方真史・三谷高史・古里貴士・南出吉祥・丸山啓史・中村(新井)清二・河合隆平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 民主主義の育てかた	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------